

団体概要書

(その1)

団体名	公益社団法人関西二期会		団体の種別 ※いずれかの□にチェックしてください。	<input checked="" type="checkbox"/> 公益社団法人 <input type="checkbox"/> 公益財団法人 <input type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 認定NPO法人 <input type="checkbox"/> 非営利型法人 (公益法人へ移行予定)
代表者の 役職・氏名	(ふりがな) りじちょう・くらたひろゆき 理事長・蔵田裕行			
主たる事務所の所在地	大阪市中央区内本町 2-3-11-601			
設立年月	1964年1月(公益社団法人:2011年12月26日付け)	構成員数	580人	
事業年度	4月 1日 から 3月 31日			
団体の活動目的	この法人は、オペラ公演、演奏会及び研修講座等の開催、研修生及び合唱団の育成等の事業を通じて、我が国の芸術文化の発展に寄与することを目的として活動している。			
活動分野	※下表の芸術文化の中から選択して記入してください。 1 音楽			
主な活動内容	公益事業1 当会会員によるオペラ公演、コンサート(演奏会、合唱演奏会)等の自主公演並びに、制作。及び劇場等とのコンサート等の共同制作。 芸術であるオペラ公演やコンサート活動を通じて声楽全般にわたる音楽文化の普及活動を行っている。また、地域社会の芸術文化に対する欲求にも答えるべく、劇場やオーケストラと協力しての活動を行っている。 公益事業2 プロとしてのクラシック歌手人材育成事業 芸術であるオペラ公演やコンサート活動を通じて声楽全般にわたる文化の普及活動を行っているが、その芸術の水準を維持するため、研修や会員等の修練の場を設けている。 その他の事業1 当会会員が行う演奏活動への支援事業 定款第3条(2)「演奏会及び研修講座等の開催」、(4)「研修生及び合唱団の育成と運営」により、広く一般社会へのクラシック音楽、特に声楽部門の普及と浸透を目指す当会の目的を遂行するにあたり、当会会員の個人的演奏活動を支援する事業である。クラシック音楽界を支える演奏家を支援することが、クラシック歌手の集団であるところの当会の責務でもある。 具体的には、各劇場、及びオーケストラ等からの出演要請に対し、当会所属の優れた歌手を紹介するものである。			
これまでの主な活動実績	※ 具体的かつ直近の活動内容がわかるように記入してください。 年間2~3回のグランドオペラ公演、年間2回のサロンオペラ公演、及び、「ドイツ歌曲の流れ」、「フランスの声」、「日本歌曲の流れ」、「イタリア歌曲の流れ」、「思い出のあの歌」、「フレッシュ・コンサート」等年間6~10回のコンサート、さらには年間15~25回の全国の小・中学校での合唱等の演奏会を含む声楽全般にわたる公演活動を行っている。 2014年度は創立50周年記念事業として、「こうもり」/J.シュトラウス、「ドン・カルロ」/G.ヴェルディ、「夕鶴」/團伊久磨の3回のグランドオペラ公演、「シャモニーのリンダ」/G.ドニゼッティ、「ラ・ボエーム」/G.プッチーニの2回のサロン・オペラ公演に加え、上記のコンサートを行った。			
ホームページ	有(URL http://www.kansai-nikikai.com) / 無			
機関紙	有(機関紙名 会員ニュース(年11回)、関西二期会だより(1200部を年4回)) / 無			

「活動分野」大阪市芸術文化振興条例第2条にて定義する芸術文化

- 1 音楽 2 演劇 3 舞踊 4 美術 5 写真 6 映像 7 文学 8 文楽 9 能楽 10 歌舞伎
11 茶道 12 華道 13 書道 14 その他の芸術文化

寄附者へのPR等

(その2)

<p>貴団体における現在の課題</p>	<p>私共の法人だけの問題ではないのですが、クラシックファンに若い年齢層の人々が加わること無く高齢化している現状が最大の課題です。20年前のオペラ公演では3公演が全て満席で大入り袋が出ていましたが、現在では同じ劇場での2公演で60%のお客様を確保するのがやっと、という有様です。それに加え少子化と東京（首都圏）一極集中の問題があります。関西圏の音楽科を持つ大学の音楽科の学生数が10年前に比べ大幅に減少しています。当法人の研修生も応募者が10年前には100人程ありましたが、現在では20名程になっています。</p> <p>また、我が国ではオペラハウスを持たないオペラ制作団体がオペラを制作する上で、欧米諸国とは全く違う制作システムの上で制作して来た歴史があります。新国立劇場誕生と耳にした折には、欧米と同様の制作システムが採られるものと期待したのですが、現状はそれ以前とほぼ同様のシステムの上で運営されています。これはオペラ制作に過度の経費を産む原因の一つとなっています。私共の法人ではここ5～6年をかけて、オペラの質に見合った適正価格化を目指し、様々な努力をしてみたい結果、かなりの成果を上げてまいりました。が、今直、総合芸術としてのオペラには多大な経費が掛かるのが現状です。</p>
<p>貴団体の将来展望 (何をめざしているのか、支援を受けて取り組みたいこと等)</p>	<p>上記の問題を解決したく、まずは地域と連携しクラシック音楽、特にオペラを以って、地域活性化を図る活動を目指しています。神戸市灘区民センターと協力してのオペラ制作を2年前より実施しています。このような活動をさらに広げ、関係する劇場をネットワーク化出来ればと思っています。</p> <p>また、子供への育成事業として「子供オペラ教室」を立ち上げたいと考えています。これは、プロデューサーから制作、本番に至るまでを、子供たちの手によって実現すべく、当法人が力を貸すという形での指導を行い、本番では当法人の歌手達と子供たちとの共演をすることにより、次代を担う人材を育成したいというものです。</p> <p>昨今の社会における様々な現象、例えば、増大する自殺者、理由のはっきりしない凶悪犯罪、ネットを介した様々な犯罪等。これらは現代社会における人間の心の情緒の不安定が原因の一旦となっていると思われまます。私共の法人がクラシック音楽、特に声楽の分野で、人々の心を癒し、社会に貢献出来る可能性を常に探しています。支援を受けることにより、これらの事業に取り組みたいと考えています。</p>
<p>市民等寄附者に対するPR</p>	<p>関西二期会は関西において声楽の分野でより高水準の音楽芸術を追求しようと、声楽家達が集い1964年に創設されました。以後50年、舞台芸術の華とでもいふべきオペラの公演を軸に、歌曲のコンサートや研修生制度を通じての人材の育成など、その活動は関西の音楽文化の領域において確固たる地位を占めるに至りました。昨今は財政再建の名のもとに、行政からの助成や補助金が削減されるという文化団体にとって大変厳しい時代です。総合芸術としてのオペラ公演につきましては、一定の芸術的成果を上げるためには経済的な裏付けが不可欠です。</p> <p>つきましては、皆様に本会の活動を是非ご支援賜りたく、お願い申し上げる次第です。現在は年2回のオペラ公演のほか、若手によるサロンオペラ公演、歌曲演奏会などの活動を行っていますが、芸術的な価値だけでなく、そこで鍛えられ技を磨いた声楽家達が、日本各地で多様な活動を続けています。正に関西からの文化発信といえましよう。さらには、関西の文化向上に大変意義のあるものと考えております。世界同時不況下の大変厳しい環境にありますが、どうぞ趣旨をお汲み取りの上、ご協賛下さいませようお願い申し上げます。</p>